

第2回 人権研修会

— みんな違ってみんないい！～「夢」という花を咲かせるために～ —

人権教育推進委員会

1 はじめに

今年度2回目の人権研修会は、障がい者の人権に対する意識を高めることを目的とした。NPO法人ゆに(DET関西)の西村泉氏を講師としてお招きし、「みんな違ってみんないい！～「夢」という花を咲かせるために～」をテーマに、研修会を実施した(図)。西村氏はSMA(脊髄性筋萎縮症)であり、当校の卒業生でもある。24時間ヘルパーを利用してひとり暮らしをされており、旅行や仕事をして、充実した生活を送られている。障がい者として生きることについて、自身の経験を基に、講演いただいた。

当日は夏休み中のため、本校訪問教育部は多目的ホールで直接、分教室はビデオ中継での実施とした。



図 研修会のようす

2 概要

日時 令和5年8月30日(水) 14:00～15:00

場所 本校2階多目的ホール

講師 西村泉氏(NPO法人ゆに(DET関西))

対象 当校教員

テーマ みんな違ってみんないい！～「夢」という花を咲かせるために～

3 内容

(1) ひとり暮らしに至るまで

自身は生後6ヶ月ごろにSMA(脊髄性筋萎縮症)の診断を受けた。地域の保育所や小学校に通い、小学5年生までは地域で過ごした。運動会では教員が車椅子を押して走ってくれ、学校行事にもすべて参加し、社会に受け入れられるということが当たり前と感じられた。当たりの権利だが、障がい者にとっては当たり前でないときもあるのが現実だ。

11歳から23歳まで、刀根山病院(現在の大阪刀根山医療センター)に入院した。家族と過ごせるのは週に2回くらいであったため、孤独を感じていた。しかし看護師や同室の人たちと良い関係づくりができ、孤独感は払拭された。小学6年から高校3年まで刀根山養護学校(当校)に在籍した。学年が1人だったため、学習への意欲が低下することがあったが、授業での創作活動や、学校行事の経験が社会に出ても活かしている。

在宅生活をしたいという思いから退院し、家族の協力を得て自宅で生活した。10年間家族と暮らしたが、「家族に何かあったら自分はどうなるのか…」と思うようになり、ひとり暮らしを始める決意をした。実家の近くか病院の近くか、どちらに住むかを考えた結果、24時間ヘルパー制度を使って重度障がい者がひとり暮らしをしている実績がある市町村を選んだ。24時間の介助に地域差がある点、エレベーターや段差に不自由がなくヘルパーの待機部屋を設けられる家を選ぶ必要がある点、慢性的な人材不足によりヘルパーの確保が難しい点が、障がい者のひとり暮らしにおける課題である。

(2) ひとり暮らしについて

食材や日用品の購入や管理、スケジュールの管理、ヘルパーとの連絡、エアコンや扇風

II 校内研修

機など家電製品全般の操作、趣味や仕事の作業、情報収集などをパソコンでこなしており、パソコンはなくてはならない存在である。好きな植物を育てて心を癒したり、欲しかったものを購入して自分の部屋に飾ったり、好きなものを選んで食べたりするなど、自由を楽しんでいる。ヘルパーや友人と行きたいところに行き、多くの経験も積んでいる。

障がい者には時間やヘルパー、経験、衣食住などを選ぶ権利やはたらく権利が与えられにくい。自由に生きるためには健康を維持し、良い人間関係を築くことが重要である。

(3) はたらくこと

ひとり暮らしに慣れたところに次の目標を考えたところ「自分ではたらいたお金で生活したい」という気持ちが出てきた。そのときに見つけた仕事が OriHime パイロットで、東京日本橋にある分身ロボットカフェ DAWN で遠隔接客業務を行っている。パイロットは現在約 70 名おり、週に 3~4 日程度はたらいている。

はたらくことで得られたものが 3 つある。1 つめは「出会い」である。お客さんとの出会いはもちろん、一緒にはたらく仲間やスタッフとの出会いは何よりの喜びである。2 つめは「可能性」である。自分の長所や短所、個性を知れたことに加え、未来に希望をもつこともできた。最後に「役割」である。これまで感じていた「自分は必要なのか、めざすものは何なのか」という孤独や不安な気持ちが解消された。さらに与えられた役割を担うことで感謝され、肯定され、社会の一員であると感じることができた。重度障がい者でも当たり前にはたらく社会をめざしてほしいと考えている。

(4) これからの展望

重度障がい者である自分自身がはたらくことで、障がい者が社会で活躍することに課題が多いということを知ってほしい。障がい者が活躍できる社会への一助となるならば、自身の経験を伝える研修や講話などの機会を増やしたい。OriHime パイロットを通して、多くの人や様々な分野に出会うことができた。その中で出会えた「障害平等研修 (DET) ファシリテーター」の資格を活かして、共生社会を考えるきっかけを作りたい。「夢」という花を咲かせるために、どんな力も大切だったということ伝える活動をしていきたい。

(5) 最後に

重度障がい者でも、環境が整っていれば、多くの喜びを感じることができる。その喜びを得るためには、周りの人の協力が必要である。子どもが「夢」という花を咲かせられるよう、学校は「経験」と「権利」について学ぶ場であってほしいと願う。

4 事後アンケート

(1) 研修会の内容について

「適当」の回答者は 49 人 (100%) であった。

(2) 感想

- ① 勇気ある行動力がとても素晴らしく、自分の励みにもなった。
- ② 担当している生徒の今後を考えるうえで、大変参考になる研修会だった。自分の生き方についても考える機会になった。
- ③ 誰もが一度は夢に見る「ひとり暮らし」だが、障がいのある方にとっては、大きな障壁なのだと知ることができた。誰にとっても平等にあるべき「選択する権利」「はたらく権利」が、当たり前には保障される社会になるよう、できることから始めたい。